

松山理事長が「第19回 国際細胞学会議」の開会式に出席しました

5月28日(土)から6月1日(水)にかけて、「第19回 国際細胞学会議」がパシフィコ横浜にて開催されました。参加者数は国内・海外合わせて約5,000人、参加国数は約70カ国の大規模な国際会議となりました。国際細胞学会は、MICEアンバサダーに就任している長村 義之教授(国際医療福祉大学大学院)が次期理事長を務められる予定です。

本会議は2010年に横浜での開催が決定し、誘致活動にあたっては国内学会とコンベンションビューロー、横浜市、PCO、そしてJNTOが連携しオールジャパンで取り組みました。1998年の東京開催以来18年ぶりの日本開催となり、この度松山理事長が開会式でご挨拶に登壇することとなりました。

松山理事長は、初日に行われた開会式にて国内外のゲスト約500名に対して歓迎のスピーチを行いました。スピーチでは、日本は世界で開催された国際会議数の統計でアジア第1位、世界第7位にあることを紹介し、国際会議開催国としてアジアをリードする日本の存在をPRしました。

また、高齢化が進む状況において細胞学のもたらす医学的重要性と、同会議の開催が日本の若手研究者と世界的な研究者と交流を図れる貴重な機会となることへの期待を述べました。

最後に会議参加者へ対し、会議後には観光や食を通じ日本文化を体験して欲しいと伝え、観光立国としての日本で会議を開催する魅力を強調しました。

